

沖縄平和学習映像教材 第2編アジア太平洋戦争

発展探究ワーク 戦後の日本

指導案・生徒用ワークシート(50 分)

発展探究ワーク:戦後の日本

アジア太平洋戦争が終わった後、日本では多くの都市が焼け、食料や住宅が不足し、社会の仕組みも大きく立て直す必要がありました。
日本は、こうした厳しい状況からどのように復興していったのでしょうか。戦後の復興には、政治や法律、教育、文化だけでなく、経済、医療、科学、技術など、さまざまな分野の力が必要でした。

戦後の日本の復興について、具体的な出来事や取り組みを一つ選び、それを支えたさまざまな分野の役割について考えましょう。
次の3点を意識してまとめましょう。

- 1.どのような問題があったのか
- 2.その問題を解決するために、どのような知識・技術・制度・人々の協力が必要だったのか
- 3.そこから、現代の社会づくりや安心安全な社会づくりについて、現代の社会に活かせるようなヒントを考えましょう。200字程度の文章にしてみましょう。

テーマの例

1 焼けた都市や住宅をどのように復興したのか？ 都市・住宅の復興: 戦災復興計画、土地区画整理、同業会アパートや公営住宅法の成立(都市工学・行政法)	2 食料不足をどのように乗り越えたのか？ 食料不足の克服: 闇市の規制と取り締まり、農地改革(自作農の創設)、キッチンジーカーや学校給食の導入・LARA(うら物資)支援(農業経済・栄養学)
3 感染症や衛生問題にどのように対応したのか？ 感染症・衛生対策: DDT散布、結核対策、国民健康保険制度の拡充、公衆衛生の近代化(医学・社会保障論)	4 教育制度はどのように変わったのか？ 教育制度の転換: 教育基本法・学校教育法の成立(6・3・3・4制)、墨塗り教科書からの脱却、民主主義教育(教育学・社会学)
5 産業や交通はどのように復興したのか？ 産業・交通の再生: 傾斜生産方式(石炭・鉄鋼)、国鉄や私鉄の復旧、新幹線の開発へつながる技術移転(経済学・工学)	6 日本はどのように国際社会へ復帰していったのか？ 国際社会への復帰: サンフランシスコ平和条約、日ソ共同宣言、国連加盟(国際法・外交史)

一つの分野だけではなく、「政治+技術」「社会+医療」「経済+科学」など、複数の視点を組み合わせて考えてみましょう。

6つのテーマ例から1つを選び、戦後の問題と解決への協力を整理する。復興の経験を、現代の社会づくりにつなげて考える。

発展探究ワーク:戦後の日本

学習指導案 中学生・高校生対象 50分 A4 2枚

6つのテーマ例から1つを選び、3つの問いすべてに取り組む。戦後の復興を、政治・法律・経済・科学技術・医療などの協力から捉え、現代へのヒントを約200字でまとめる。

1 本時の目標と準備

①選んだテーマの問題を、人々の生活への影響とともに説明する。②知識・技術・制度・人々の協力が、どのようにつながって解決を支えたか考える。③戦後と現代の違いも踏まえ、現代に生かせる考え方を示す。

準備:スライド3枚、ワークシート1枚、筆記用具、端末・図書資料。映像は事前に視聴する。4人程度の班で同じテーマを選ぶ。調査先として公的機関・博物館等の資料を準備し、資料名・発行元・年・URLを記録させる。

2 本時の展開 50分

時間	学習活動	教員の働きかけ・指導上の留意点	学習の狙い・評価
5分	テーマ選択と問題の整理 6例から1つ選び、第1段階に問題・影響をメモする。	2分でテーマを選び、3分で問題をメモする。調べたいことを一つ決める。 発問①「人々は何に困っていましたか」 発問②「誰の生活に、どんな影響がありましたか」 声かけ「まず具体的な困りごとを一つ書こう」	狙い:問題を具体化する。 評価:テーマと生活への影響をつなげて示せるか。
15分	自分たちで調べ学習 班で調査項目を分担し、問題・取り組み・関係する分野を調べる。	3分で調査項目を分担し、10分で調べ、2分で資料と要点を持ち寄る。制度名や取り組みを検索語にし、発行元・年を確かめる。情報が見つからない班には資料の候補を示す。 発問①「何を調べれば問題が具体的にになりますか」 発問②「その情報は誰が、いつ示したのですか」 声かけ「資料名と、分かったことを一緒にメモしよう」「調べる内容を分担しよう」	狙い:必要な情報を集める。 評価:資料の出所を確かめ、要点を整理できるか。
10分	協力と現代へのつながりを対話 第2段階に、分野と役割、そのつながりを書く。	3分で調査結果を共有し、4分で分野の役割と関係を整理する。最後の3分で現代と比較する。ヒントや解答例の手順を、自分たちのテーマに置き換えさせる。 発問①「どんな分野や人の力が必要でしたか」 発問②「一つの分野だけでは難しいのはなぜですか」 声かけ「『誰が何をし、それを誰が支えたか』でつなごう」	狙い:協力の関係を捉える。 評価:分野の列挙にとどまらず役割の関係を示せるか。
12分	各自で3問に解答 問題、必要な協力、現代へのヒントを文章化する。	問1・2に各3分、問3に4分を使う。残り2分で別の理由や分野も探す。調べた事実と自分の考えを分け、問3を約200字でまとめる。 発問①「その協力は、何の解決に役立ちましたか」 発問②「現代のどの課題に生かせそうですか」 声かけ「過去の取り組みと今の課題をつなげて書こう」	狙い:根拠と考えを結ぶ。 評価:問題・協力・現代への示唆がつながっているか。
8分	再共有と書き直し 5分で文章を共有し、3分で加筆・確認方法を書く。	調査資料を根拠に理由を説明させる。別の見方を加え、約200字の文章を整える。未確認の点は次の調査へつなぐ。 発問①「友達の考えから何を加えられますか」 発問②「現地の何を見れば確かめられますか」 声かけ「今と戦後の違いも一つ確かめよう」	狙い:見方を広げる。 評価:共有を受けて説明を見直し、次の調査につなげるか。

指導上の留意点

復興を一つの政策や人物だけの成果として説明しない。分野ごとの役割と協力を捉え、解答例の数値や制度名は選んだテーマの資料で確かめる。現代への応用では、時代・地域・制度の違いも考える。

到達のイメージ

例:住宅不足を住居だけでなく生活や衛生の問題として捉え、法律・行政、建築技術、資金、地域の協力を関連づけて説明する。その経験から、現代の災害復興でも住まいと暮らしを一緒に支える必要性を、自分の言葉で示す。

テーマ選択とヒント・解答例を用いた授業の支援

3 テーマ例から1つ選ぶ

1つのテーマについて3問を考える。班で関心を出し合い、資料から具体的な取り組みを探せるテーマを選ぶ。全テーマに答える必要はない。

① 都市・住宅の復興

焼けた都市や住宅をどう復興したか。都市計画・行政、土地や住宅の制度、建築技術、資金の役割を考える。

② 食料不足の克服

不足する食料をどう確保したか。農業、農地改革、配給・海外からの支援と、人々の生活の関係を考える。

③ 感染症・衛生への対応

感染症や不衛生な環境にどう対応したか。医療・薬、公衆衛生、上下水道などの整備と生活の改善を考える。

④ 教育制度の変化

教育をどう再出発させたか。法律・制度、学校の整備、教員や地域の協力が学びをどう支えたか考える。

⑤ 産業・交通の復興

生産や移動をどう回復させたか。技術、資金、働く人、資源・輸送網などが互いに必要な理由を考える。

⑥ 国際社会への復帰

国際社会とどう関係を築き直したか。外交、条約、国際機関、貿易などの役割と国内の生活への影響を考える。

4 ヒントは必要な時に一つずつ示す

まず生徒自身のメモを確認する。書けない時は「何が分からない？」と尋ね、その段階に合うヒントを示す。①問題が曖昧なら「何が不足し、誰が困った？」。②取り組みが出ないなら「制度・技術・資金・人のどれが必要？」。③分野を並べるだけなら「技術を使うために、誰が何を整える？」。④現代につながらないなら「今も似た困りごとはある？ 違いは何？」。一つ示したら資料に戻り、自分の言葉で書く時間を取る。

5 住宅不足の解答例をどう活用するか

解答例を提示し、「問題 → 取り組み → 分野の協力 → 現代への示唆」の順に読む。全文の転記を求めず、各段階がどうつながるかを確認する。住宅以外を選んだ班には、自分たちのテーマの問題や分野に置き換えさせる。

①問題：戦災・引揚げなどで住まいが不足し、過密な生活や衛生の問題も生じた。②取り組み：一時的な住居の確保に加え、住宅金融公庫・公営住宅・日本住宅公団などの制度が供給を支えた。③協力：法律・行政が仕組みを整え、建築・土木が住宅や街をつくり、資金・資材・産業が実現を支えた。暮らしに合う設計も必要だった。④現代：災害後は住宅の量だけでなく、生活・福祉や地域のつながりも支える必要がある。

確認の声かけ：「制度だけで住宅は建つ？」「住宅があれば暮らしの問題は全部解決する？」。解答例にある数値・年・制度の詳しい内容は資料で確認し、現代にそのまま適用できるとは決めつけない。

6 学級に応じた進め方 いずれも 50 分

プラン	進め方と時間配分	特徴と支援のポイント
協働型	選択5分 → 班で調査 15 分 → 対話 10 分 各自で解答 12 分 → 共有・修正8分	同じテーマで役割を出し合う。発言が少ない生徒も、メモをもとに一つの分野を挙げられるよう支える。
併用型	選択5分 → 個人で調査 15 分 → 整理 10 分 班で共有8分 → 解答・修正 12 分	先に自分で調べて整理し、共有で不足する分野や理由を補う。初稿に追加した見方を残す。
自立型	選択5分 → 個人で調査 15 分 → 整理 10 分 各自で解答 12 分 → 比較・修正8分	自分で調査・整理・解答し、根拠や協力の関係を互いに確認する。必要な時にヒントや例に戻る。

7 評価と現地学習への接続

問題の具体性、協力の関係、現代への考えのつながりを見取る。沖縄の現地では、資料館の戦後生活の展示や街並み、住民の話から、選んだテーマの復興を支えた仕組みや人々の協力を探す。訪問先で確認できない点は、事後の資料調査へつなぐ。

出典：提供スライド「発展探究ワーク：戦後の日本」「考えるヒント」「解答例：戦後の『住宅不足』を乗り越える」。

沖縄平和学習映像教材 発展探究ワーク:戦後の日本

年 組 番 名前

日付

50 分で1テーマを選び、自分たちで調べて3問に答えよう。番号にチェックを付けよう。

- ☐ 1 都市・住宅 ☐ 2 食料不足 ☐ 3 感染症・衛生
☐ 4 教育制度 ☐ 5 産業・交通 ☐ 6 国際社会への復帰

第1段階 問題と人々の生活への影響を整理しよう

15 分の調べ学習で、何が不足し、誰が困ったかを調べよう。資料名・発行元もメモしよう。

第2段階 解決を支えた分野と協力を整理しよう

誰が何をしたか。知識・技術・制度・資金・人の役割を矢印などでつなごう。

問1・2は各3分、問3は4分。残り2分で別の理由も加え、共有後に見直そう。

問1 どのような問題があったのか

選んだテーマについて、戦後の具体的な問題と、人々の生活への影響を書こう。

ヒント:住まい、食べ物、健康、学び、仕事、他国との関係など、生活に着目する。

問2 解決には、どのような力や協力が必要だったのか

必要だった知識・技術・制度・人々の役割と、それらのつながりを書こう。

ヒント:住宅の例では、制度・行政、建築技術、資金などが協力する。自分のテーマでは？

問3 現代の社会に生かせるヒントを考えよう 約 200 字

現代の社会づくりや安心・安全な社会づくりに、どんな考え方を生かせますか。

ヒント:現代の課題を一つ挙げ、戦後の協力から学べることと、今との違いを考えよう。

現地や資料で確かめたいこと

どこで、何をしたり聞いたりすると、考えを確かめられそうですか。

資料:提供スライド「戦後の日本」「考えるヒント」「住宅不足の解答例」。